

(様式1)

令和2年度 学校経営計画

1 学校教育目標

一人一人の生徒が自分に対する理解を深め、将来の社会的な自己実現に向かって意欲的な学校生活を営むことができるような援助、指導を行う。

◎校訓（生徒への願い）

○発見（新たな自分の発見） ○挑戦（新たな自分への挑戦） ○創造（新たな自分の創造）

2 学校の特徴

- (1) 多様な学習歴を持つ生徒のニーズに応え、少人数で自分のペースに合わせて学ぶことができる教育課程をマネジメントしている。
- (2) 望ましい人間関係の構築やコミュニケーション能力向上のため、生徒が主体となる行事や部活動、ボランティア活動等を推進している。
- (3) 自分の目標や夢に向かった進路実現を可能とするために、各年次において人生のあり方や生き方を考えさせるキャリアアッププロジェクトを個々に展開している。
- (4) 支援の必要な生徒に対して、SC、SSW、通級指導員をはじめ外部機関とも密接に連携し、個別の支援計画の作成や校内研修等により、共通理解を図り学校全体で支援を行っている。
- (5) 高校生と社会人がともに学び合う共学講座を、多くの教科科目で実施しており、地域の生涯学習拠点となっている。

3 学校の現状と課題

本校の生徒は、学習意欲、生活習慣、進路に対する意識、コミュニケーション能力等において、その実態は多様である。また、不登校の経験や障害を抱えているなど、特別な支援を必要として、学校生活への適応力を十分備えているとは言えない生徒も見受けられる。

生徒一人一人が学びに向かい、思考力、判断力、表現力を育み、自立していく力を身につけさせるため、学校全体のユニバーサルデザイン化、教育相談体制の充実、個々に応じたきめ細やかな支援が必要となっており、さらに組織力を高めることが求められている。

また、キャリア教育のあり方については、生徒や保護者への的確な情報提供を行い、上級学校や企業等との連携による「オープンキャンパス」「インターンシップ」等の行事を通じて、望ましい勤労観・職業観の育成を図っており、今後一層の指導体制の充実が必要である。

2022年度から始まる新学習指導要領の実施に向け、カリキュラム編成の工夫やタブレットの効果的な活用等によるICT教育の充実を図る。

(様式2)

4 学校教育計画

項 目		目 標 ・ 方針及び計画	
1	学習活動	目 標	・ 各教科、科目において、生徒一人一人が学習課題の解決に向け、思考力、判断力、表現力を育成し、学習内容の確実な習熟を目指す。
	重点1	計 画	① 学習内容の確実な習熟と学習意欲を向上 させるため、互見授業や校内外研修などにより授業研究を進め、生徒主体のわかりやすい授業とユニバーサルデザイン化を推進する。 ② 生徒の多様な学習意欲、習熟度を把握し、学習指導法の改善に活かす。また、各教科間の連携を図りながら、通級指導を実施する。
2	学校生活	目 標	・ 基本的な生活習慣の確立を図るとともに、社会的な規範やマナーを遵守する態度の育成、安全意識の高揚に努める。 ・ 心身両面にわたって、健康の保持増進に努めようとする能力、態度を育成し、各自の生活リズムについて考えさせる。
	重点2 重点2	計 画	① 日常生活における基本的な生活習慣の確立や、社会生活のきまりについて、主体的に考えさせるよう努める。 ② 地域の講師による安全教育や、車体検査・交通安全指導を実施することにより、 安全意識の高揚 を図るとともに、自転車等の乗車マナー向上に努める。 ③ 保健委員会の活動を通して、 基本的な生活リズムを考えさせることで、健康な心身を育て、学校生活の質を向上させる。 ④ SC、SSW、巡回指導員、通級指導員との連携を深め、個々の教育相談の充実を図り、職員の情報共有を進め、生徒理解に努める。
3	進路支援	目 標	・ 将来の自己実現に向かって、意欲的に学校生活を送っていかうとする態度を育成し、進路実現に向けてきめ細やかな指導を行う。
	重点3	計 画	① 適切な進路目標を設定し、自己実現できるように必要な能力の育成 を図るため、「進路ノート」を活用するとともに、面談を通して人間としての在り方、生き方について、多面的できめ細やかな支援を行う。 ② 職業研究、インターンシップ、進路特別講座等において、関連機関や就職支援教員（JST）との連携により、個々の職業観の育成を図る。

4	特別活動	目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を培う。 ・ 読書に親しませ、豊かな人間性と情操を養わせる。
	重点4	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校行事では、内容や運営方法を常に工夫し、生徒の満足度が十分に上がるよう努める。 ② 生徒会活動や委員会活動への積極的な参加を促し、学校行事において生徒に自主的な企画・運営をさせ、生徒一人一人に満足感を持たせる。 ③ 部活動では、生徒の積極的な加入と自主的な活動を促し、心身の成長につなげる。 ④ 生徒の購入希望図書や電子書籍、校外図書館等の利用状況の把握に努め、本校図書館の学習環境や機能を充実させ、生徒主体の委員会活動との連携により、読書習慣の定着を図りつつ図書館の有効な活用を進める。
5	その他	目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合福祉科では、社会福祉に関する基礎的基本的な知識と技術を総合的に習得させ、社会福祉の理念と意義を理解させる。 ・ 保護者や地域の施設との連絡を密にしながら、地域との連携や交流を推進する。
	総合福祉科学習活動 及び 保護者・地域との連携	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域との福祉交流活動を通して、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、専門技術者による講座を通して社会福祉への理解を深めさせる。また、将来の進路目標や自らの在り方生き方について考えさせる。 ② 福祉関連の進路目標を早期に確立させ、専門科目への意欲的な学習へ導き、学習の達成感を持たせつつ介護技術の定着を図る。 ③ P T A、同窓会、地域諸団体等との連携を深めることで、学校行事やボランティア活動への保護者、生徒が参加できるような環境づくりに努める。 ④ 学校説明会の実施、ホームページやフライヤー等を活用して、本校の教育活動を広く紹介する。
	重点5		

(様式3)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和2年度 となみ野高等学校アクションプラン		-1-
重点項目	学習活動	
重点課題	学習内容の確実な習熟と学習・授業への意欲向上	
現 状	・ 学習内容がよく定着していない生徒が見られる。 ・ 授業に対して意欲的に臨む姿勢に欠ける生徒が見られる。	
達成目標	① 単位修得率 90%以上	② 学習・授業についてのアンケートで「授業に真面目に取り組んでいる」と回答する生徒の割合 95%以上
方 策	・ タブレット等 I C T の効果的な活用により、授業改善に取り組み、より分かる授業を目指す。 ・ 適切な課題を設定し、確実な提出を促すことで学習内容の定着を図る。 ・ 生徒の実態に応じて、通信科目の選択を提示するなど、多様な学習の機会を確保できるようにする。 ・ 学習状況調査など、学習に関する各種アンケートを実施し、生徒の実態を把握する。また分析結果を個人面接等で活用し、学習への意欲を喚起する。 ・ 進路指導部と連携し、進路目標を意識して学習に取り組むよう促すことで、授業への意欲にもつながるようにする。 ・ 『履修の手引き』や『科目登録ガイダンス』を効果的に活用し、卒業後の進路を見通した主体的な科目登録ができるように履修指導を充実させる。	

重点項目	学校生活	
重点課題	① 安全意識の高揚	② 基本的な生活リズムを考えさせることで、健康な心身を育て、学校生活の質を向上させる。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故が29年度4件、30年度0件、元年度1件発生しており、スマホの「ながら運転」など安全意識に欠ける生徒や、事故が発生した場合に適切な対処ができない生徒が見られる。 1日の睡眠や食事などの基本的な生活リズムが確立せず、倦怠感等の体調不良を訴える生徒や遅刻や欠席をくりかえす生徒が見受けられる。また、生活リズムを整えることへの意識は高まっているが、自主的な行動に移せない生徒が見られる。 	
達成目標	① 生徒の過失、違反による年間の交通事故件数 ゼロ件	② 「生活リズムと健康のつながりを意識して行動できた」とする生徒の割合 60%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室を実施し、安全意識を高める。また、定期交通安全指導を実施し、歩行時、自転車運転時におけるマナー遵守の意識を向上させることで、未然に事故防止を図る。 全校集会や年次集会等で、命の大切さを考える機会を持ち、自他の命を尊重する意識や態度を育成する。 車体検査を前期、後期に1回ずつ実施し、十分に整備された自転車の使用を徹底させる。 交通事故が発生した場合に、適切な対処ができるよう資料を活用し指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1日の生活リズムについて、実態把握や意識を知るために、アンケート等を実施する。 生徒保健委員会による啓発活動を通して、生徒自身が睡眠や食事などの大切さを意識し、生活リズムの確立・改善に努められるように促す。 「心と体のつながり」についての理解を深め、健康意識を高められるように、生徒向け研修会を企画・実施する。 生徒が自身の生活リズムについて、自分で振り返るためにアンケートを実施し、健康管理への意識を高める。

重点項目	進路支援	
重点課題	適切な進路目標を設定し、自己実現できるようにする	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路に対する意識が希薄で、明確な目標を持ってない生徒が見られる。 ・ 目標設定に係る情報量の不足が顕著である。 ・ 進路達成における基礎学力および基本的なマナーが、不足している生徒が見られる。 	
達成目標	① 卒業予定者の進路目標達成率100%	② 2月の進路希望調査で、進学・就職を明確にできる生徒の割合 1年次75%以上 2年次90%以上、
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職業研究、インターンシップ、進路特別講座（上級学校・職場見学会、先輩講話、進路ガイダンス、社会人講話など）を事前・事後指導を併せてきめ細かく行う。また、これらにおいて進路ノートの活用を各年次に周知徹底し、段階的な進路意識の向上を目指す。 ・ 年次と連携し、生徒に対し速やかな進路情報の提供を図るとともに、情報誌の入手により進路情報の収集を図り、生徒および職員が共有する情報量の増加を目指す。 ・ 卒業予定者に対して、就職支援教員（JST）や校務運営委員とも連携し、進学・就職試験に向けた面接指導・小論文指導を個別に実施し、社会人として求められる基本的なマナー、コミュニケーション能力および自己表現力を身に付けさせるよう指導する。 ・ 基礎学力や基本的マナーを身に付けるために、放課後などに必要に応じて個別学習を行い、進路実現力の向上を図る。 ・ 英数国を中心とした年次別学習を実施した上で、基礎学力コンテストを行い、結果を自己点検させることで、基礎学力の定着を図る。 	

重点項目	特別活動	
重点課題	① 生徒会活動・委員会活動への積極的な参加	② 図書館の有効な活用
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団活動に苦手意識をもち、大勢でのコミュニケーションを必要とする場面になると場になじめない生徒や、生徒会活動や委員会活動の企画運営、参加に消極的な生徒が見られる。 ・ 生徒が読書をするのはプライベートな時間が中心である。校内では、読書の質を向上させたり、学習等における図書館の活用法についての支援が効果的であると考えられる。 	
達成目標	① 生徒会活動・委員会活動の充実度 80%以上	② 図書館の活用率向上 70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校訓「発見、挑戦、創造」に基づき、活動の意欲の向上を図り、その実践に努める。 ・ 生徒会活動、委員会活動において、1人ひとりの役割を生徒が自覚し、責任を果たすことができるよう配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な生徒のニーズに応じた作品や進路に関する書籍を準備する。案内・掲示や行事の進め方を工夫し、読書に対する意識を高めて図書館の活用率を上げる工夫をする。 ・ 図書委員が積極的に委員会活動を行い、学校全体に図書館の活用を促すことができるよう指導する。 ・ 読書だけでなく、図書館での調べ学習やN I Eを推進し、アンケートで実態を把握する。

重点項目	その他(総合福祉科学習指導)
重点課題	専門科目への意欲的な学習
現 状	「地域で活躍する介護人材の育成」を指導目標として、日々の授業の中で介護のあり方を考えたり、知識・技術を定着させることに努力を要している。
達成目標	介護技術の定着度・満足度(生徒の自己評価による) 80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・ 生徒に介護技術評価項目をわかりやすく示し、目標を明確化できるようにする。・ 生徒同士の学びあいを活かして、相互に介護技術を高めさせる。・ 関連授業の連携により介護技術を繰り返し練習させる。・ 個別の配慮を要する生徒に対する指導や評価、実技試験の実施方法について工夫する。・ 授業のユニバーサルデザイン化を進める。